

第2回 精神障害者の住まい検討部会	
日 時	平成27年8月25日(火)
開催場所	KRCビル 大会議室
出席者	大友委員、塩崎委員、土屋委員、宮川委員
欠席者	佐伯委員
開催形態	公開
議 題	1 開会 2 議題 (1) 住まいに係る課題及び今後の方向性について (2) その他
議 事	<p style="text-align: center;">— 開会 —</p> <p style="text-align: center;">— 第1回 検討部会終了後に提出された資料の補足説明 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物件を借りようと思っても断られるのが現状です。また、精神障害者への偏見があるので、そういった偏見を振り払うために、まずは、きちんと生活しているという実態を大家さんに知ってもらいたいと思います。研修会などで知らせていくことも必要ではないでしょうか。もっと実態を知ってもらいたいです。</li> <li>・生活するには、様々な支援のルートがあります。そういった中では、中心的な役割を担うコーディネーターが必要ではないでしょうか。また、夜間に不安になることが多いので、電話で相談できる仕組みがあれば、入院にならず、少し安定して生活していけると思います。</li> <li>・入居申込みの書式等は、こういう提案を受けて、制度設計をどうするかについては、どうなのかと思うところもあります。この提案を踏まえて、具体的に動く際には、もう少し丁寧に議論して進めていく必要があるのではないのでしょうか。</li> <li>・生活支援センターが夜間交代制での電話対応ということも現実の体制では難しいと思います。夜間の電話相談については、必ずしも緊急的な連絡ではないものもあります。日中の見守りの中にももう少し支援があれば、夜間の対応は少なくなるかもしれないと思います。</li> <li>・入居審査申込の書式が、困難であるということについて、緊急連絡先や連帯保証人が、健常者を基準に考えられているので、障害者が書きにくいという現状があります。これをどうするかも考えていく必要があると思います。</li> </ul> <p style="text-align: center;">— 第1回議論の要旨について説明 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の2委員からの提案の(1)のウの矢印以降の記載には、家賃保証も加えていただきたいと思います。</li> <li>・現行制度の課題について、親が元気な家庭への支援がないということを踏まえてもらいたいです。</li> <li>・サテライト型のグループホーム(以下、「GH」という。)は有効な手法だと思います。従来のGHをそのまま増やしていくよりは、このような新しいGHを積極的に取り</li> </ul>

入れて、増やしていくことが移行を促進できるのではないのでしょうか。まだまだGHを出たくないという人もいますので、このような制度を積極的に周知してもらいたいと思います。

・様々なサービスが出てきて、そのサービスが重なる部分も出てきました。昔のサービスがない時代は、包括的な生活支援センターをどのように構築するかという議論をしていましたが、サービスが少しずつ整ってきた中では、それぞれのサービスが孤立化しているように思います。ここで、今一度、包括的なサービスの検討が必要になってきているということ、認識してもらいたいです。

・偏見があつて、借りられないということは、もう少し議事録に入れてもよいのではないのでしょうか。頭から断られるということは見せておいた方がよいと思います。

#### — 事務局から報告書(案)について説明 —

・来年度に調査するという事は、具体的な施策展開は、いつ頃になるのでしょうか。是非、調査と並行しながら施策展開を進め、平成29年度からスタートするようなスケジュール感で動いてもらいたいと思います。平成30年度のスタートでは遅いと思います。

・GHから出て一人暮らしをしたい人は、そこまで多くないという意見もあります。GHで一生過ごしたいという人もいます。実態が把握できていないので調査する必要性はありますが、今後、設問の組み方は丁寧に行っていくべきだと思います。単に「GHを出て、一人暮らしは可能か。」と聞かれたら、「可能であり、出たい。」と答える方が多いと思います。そうではなくて、GHの説明を入れるなど、もう少し現実的な視点を盛り込んでいく等の工夫が必要だと思います。

・調査対象については、GHに入居している精神障害者、精神科病院の入院患者に限定せず、ご家族とともに生活している中で、一人暮らしを希望する方も考えていくべきではないのでしょうか。対象者を広げることの難しさはあると思いますが、GHや病院からのニーズだけでは足りないところがあるとも思います。調査対象の絞り方については、配慮が必要だと思います。

・このままだとGHの設置を抑制する形になってしまう可能性もありますので、誤解を生まないような設計にしてもらいたいですし、対象者の部分は配慮していく必要があると思います。

・病院に対するアンケートについては、病院宛てではなくて、本人向けにやってもらいたいと思います。

・病院へのアンケートについては、退院したい、地域生活をしたいという実態が見えてこない可能性もあります。単にアンケートを取るだけでは、効果が薄いかもしれません。また、急性期の患者が早く退院したいと言い、慢性期の患者がずっと入院していきたいと言うなど、急性期の患者か、慢性期の患者かによって、意向と現実が少しかい離れているかもしれません。その辺は、病院側との調整も必要になると思います。

・調査票の設計や方法については、以前に実施した調査をもとに丁寧に組み立て

ていくと良いのではないかと思います。

— 本日の意見を踏まえ、報告書(案)を修正し、  
各委員確認後、検討部会としての報告書することを確認 —

— 解散 —